

笑って育つ子供の心

子供は言葉が話せなくても、身近な大人(親)と
コミュニケーションをとりたくてうずうずしています
言葉を話す前の時期から、
耳に届く語りかけをたくさんしてあげましょう

0歳から4歳までの語りかけのコツ

- 1 子供の目を見ながら、ゆっくり、繰り返し話しかける
- 2 乳児期から、ゆったりあやしたり、喃語にも答える
- 3 短い文で分かりやすく



★ 言葉を話す前は「アイコンタクト」で以心伝心

《例 え ば》

言葉で自分の要求や感情を表現できない0~2歳児にとって、泣いたり、笑ったりぐずることが自己表現です。「うるさい子」「早く泣き止みなさい」などと、親の感情を出すと子供は感情表現を諦めます。(無表情になり、話せる時期になっても言葉を出さないことも…)



言葉に愛情を込めて子供の目を見ながら「〇〇ちゃん 大好き」と声をかけてください。
(おとなしくしているから大丈夫ということではないと思いますよ)

「いないいないばー」とあやすことで、子供は視線を合わせ笑うようになります。親と子供の笑いが通じ合える瞬間、それがその後のコミュニケーションの土台になります。やがて首がすわる頃、発声の土台ができてきます。その時に、親が良く笑いかけると子供も一緒に笑うようになります